

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本洋子）

本学習指導案では、安全管理について生徒自らが課題を発見し、解決策を見出すために主体的かつ協働的に取り組むことができるよう工夫された授業展開になっています。これまでの学習内容を活用したり、事前に動画を視聴することで、興味関心が高まり、授業内容を自分事として捉えることができるよう工夫されています。

また、シミュレーション活動やグループ協議により、安全な医療の提供のためにチームで取り組むことの必要性に気づき、臨床実践能力が身に付くよう工夫されています。

1 日 時 令和5年11月8日(月) 第5限

2 場 所 基礎看護実習室

3 対 象 看護科1年2H 40名

4 単元名 看護の共通技術 ウ 安全管理

5 単元の目標

- ①安全管理について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けさせる。
- ②安全管理について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見出す力を養う。
- ③安全管理について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、転倒・転落や誤薬を含む多様な事故を防止するため、事例を取り上げた演習などを通して、状況に応じた危険を予測し、生活環境の安全を図るための臨床実践能力を身に付けることができる。また、看護師の法的責任について意識付けるとともに、事故の発生原因や再発防止・未然防止について考える態度を養う。安全管理についてチームで情報を共有し、患者の生活環境の安全を図る重要性を理解することが大切である。

(2) 生徒観

生徒は5年一貫看護教育の1年生であり、入学時より「基礎看護」「人体と看護」「看護臨地実習」等の専門科目を学習している。これまで基礎看護技術の校内実習を6項目行っており校内実習中にヒヤリハットを感じた生徒が63.4%存在している。また、看護臨地実習で医療事故を起こさないか不安であると回答した生徒は92.7%である。6月の看護臨地実習は新型コロナウイルス感染症の影響により校内における代替実習となり、高齢者福祉施設・病院での臨地実習を経験していない。

(3) 指導観

高齢者福祉施設・病院での実習を経験していない生徒に対して、患者の生活環境を再現したシミュレーションを行うことにより、患者の生活環境を具体的に想像させ、生活環境に潜む危険について考えさせたい。さらに、患者の生活環境に潜む危険に対して、どのように行動するのかグループワークを行うことで、安全な医療の提供のためにチームで取り組むことに気づき、状況に応じて判断し行動する力（臨床実践能力）を身に付けさせたい。

7 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
安全管理について理解するとともに、関連する基礎的な技術を身に付けている。	安全管理について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見だし、表現している。	安全管理について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

8 単元の指導計画（全3時間）

次	学習内容 (時数)	評 価			評価方法
		知・技	思・判・表	主	
1	・医療の安全管理に対する制度的取り組み ・医療における安全管理の	◎		○	・安全管理について理解している。 ①②③

	あり方（1時間）					
2	危険予測トレーニング （1時間/本時）		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理について課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見だし表現している。 安全管理について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 	①②
3	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全への組織的な取り組み 主な医療事故と事故防止のための具体策 （1時間）	◎	○		安全管理について関連する基礎的な技術を身に付けている。	①②③

①授業態度 ②ワークシート ③定期試験

9 本時の授業

(1) 本時の目標

- 患者の安全を脅かす環境に気付き、危険を予測し、表現することができる。
- 患者にとって安全な療養環境を整えることができる。

(2) 観点別評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	安全管理について課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見だし、表現している。	安全管理について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準 [観点] (評価方法)
導入	1 本時の目標の確認をする 2 本時の内容を理解する	◇本時の目標確認	
展開 40分	3 課題を見いだす ・事前学習（ワークシート）に記載している、患者の安全を脅かす環境に気付く。 4 課題解決を行う ・予測した事故を防ぐため、環境を整える。 ・他グループとディスカッションを行う。	◆グループワークを行い、他者の意見を聞き、患者の安全を脅かす環境に気付ける様促す。 ◇気付いた環境が、どのような事故につながるか予測させる。 (ポイント) ・危険度が高い状況 ・患者が動くと危険な状況 ◆ベッド間巡視を行い、考えられない生徒やグループに声をかけ、具体的な事故を想起させる。 ◇指示したグループにシミュレーションを実施させる。 ・訪室して患者に挨拶をする。 ・療養環境の観察、確認をする。 ・安全を確保するための環境を整える。 ・報告する。 ◇気付き、学びを共有させる。	安全管理について課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見だし表現している。 [思考・判断・表現] (ワークシート) 安全管理について自ら学び、対象に応じて実際の看護を適切にかつ安全に展開できるよう主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 [主体] (取り組む姿勢)
まとめ 5分	5 振り返りを行う ・ワークシートに感想・気付きをまとめる。 ・数人発表する。	(発問) 「事故を防ぐためには、どのようなことが大切だと学びましたか」 (説明) ・未然防止について	

		・今後の学習	
--	--	--------	--